

やんばる国立公園

指 定 書

令和2年2月26日

環 境 省

目次

1	やんばる国立公園の指定理由	1
2	地域の概要	3
(1)	景観の特性	3
ア	地形・地質	3
イ	植生	3
ウ	野生動植物	4
エ	海域	7
オ	自然現象	7
カ	人文景観	7
(2)	利用の現況	8
(3)	社会経済的背景	8
ア	土地所有別	8
イ	人口及び産業	8
ウ	権利制限関係	11
3	公園区域	15

1 やんばる国立公園の指定理由

①景観（同一風景中、我が国の風景を代表する傑出した自然の風景地）

沖縄島北部地域には、世界的にも数少ない国内最大級の亜熱帯照葉樹林が広がり、琉球列島の形成過程を反映して形成された島々の地史を背景に多種多様な固有動植物及び希少動植物が生息・生育し、石灰岩の海食崖やカルスト地形、マングローブ林など多様な自然環境を有している。日本のわずか0.1%にも満たない地域において、山地丘陵、石灰岩のカルスト地形、溪流などの変化に富んだ地形・地質がみられ、亜熱帯照葉樹林に適応した動植物の種の多様性は非常に高く、固有種や遺存固有種、世界的にも絶滅のおそれのある重要な野生生物が集中して分布する特徴的な生態系が形成されている。琉球列島はトカラ海峡とケラマ海峡を境として「北琉球」「中琉球」「南琉球」に区分され、中琉球には奄美群島と沖縄諸島が属する。この地域には共通する種や近縁種が分布するものの、沖縄島北部地域にはヤンバルクイナやノグチゲラ、ヤンバルテナガコガネなど奄美群島には生息しない当該地域に特徴的な固有種や、リュウキュウヤマガメなど沖縄諸島にしか分布しない種、当該地域を北限とする種が多いなど、奄美群島とは異なる生態系が形成されている。

近年、照葉樹林については、様々な野生動植物が生息・生育し、その雰囲気を感じられる豊かな生態系を有するすぐれた自然の風景地として、国立公園として評価することが求められている（「国立・国定公園の指定及び管理運営に関する提言」平成19年3月）。また、沖縄島北部地域については、平成22年度の国立・国定公園総点検事業において、我が国を代表する傑出した地域として新規に国立公園の指定を行う候補地として選定された。

そして、現在、沖縄島北部地域のうち、多くの固有種が生息・生育し、まとまりある森林が比較的健全な状態で残る地域は、^{くにがみそん}国頭村、^{おおぎみそん}大宜味村、^{ひがしそん}東村の一带（以下、「やんばる地域」という。）となっている。

以上より、やんばる地域は、琉球列島の形成過程を反映して形成された島々の地史を背景に多くの固有種が集中して分布する国内最大規模の亜熱帯照葉樹林の生態系を中心として、高湿度の山地に発達する雲霧林、溪流植物群落などの河川生態系、石灰岩地特有の動植物、マングローブ生態系といった多様な生態系が複合的に一体となった景観を風景形式とした、我が国を代表する傑出した地域である。

②規模（区域面積が原則として1万ha以上（島嶼））

本国立公園の区域面積は17,352ha（陸域）である。

③自然性（原生的な景観核心地域が原則として約2,000ha以上）

本国立公園の原生的な景観核心地域は、^{にしめだけ}西銘岳、^{いぶだけ}伊部岳、^{てるくびやま}照首山、^{よなはだけ}与那覇岳、^{いゆだけ}伊湯岳及び^{たまつじやま}玉辻山周辺の^{だけ}脊梁山、^{へどだけ}ネクマチチ岳周辺、^{へどみさき}辺戸岳、^{へどみさき}辺戸岬などであり、その合計区域面積は8,010haである。

<参考：特別保護地区：3,009ha、第1種特別地域：5,001ha>

④利用（大人数による利用が可能）

景勝地や観光地めぐり、亜熱帯照葉樹林の散策、カヌー体験、川遊び、海水浴や海浜でのキャンプなどが行われている。そのほか、ヤンバルクイナやノグチゲラなどのやんばる地域の生き物観察を目的とした利用も行われており、利用性に富んでいる。

⑤地域社会の共存（地域社会の理解の獲得）

住民説明会の開催や関係市町村の同意を経て、指定するものである。

以上、「国立公園及び国定公園の候補地の選定及び指定要領（平成25年5月17日付け環自国発第1305171号 環境省自然環境局長通知）」に記載される要件を満たすことから、本地域を国立公園に指定する。

また、本国立公園のテーマを「亜熱帯の森やんばる－多様な生命(いのち)育む山と人々の営み」とし、多種多様な固有又は希少な動植物が生息・生育する生態系を保全し、これらの自然をおそれ敬うと同時に豊かな恵みを享受しながら育まれてきた地域のくらしと文化の維持継承に寄与し、豊かな生物多様性と独特な亜熱帯森林生態系を実感できる国立公園を目指す。

2 地域の概要

やんばる地域は沖縄島北部に位置し、3村（国頭村、大宜味村、東村）の合計面積（340 km²）は沖縄島の約28%を占めている。

やんばる地域は琉球諸島の一部として、生物地理区としては、植物相は旧熱帯区系界に属し、東南アジア区系区に分類される。動物地理区で見ると旧北区と東洋区の移行帯域として東洋区要素をもつ地域となっている。

沖縄島が属する琉球列島は、約1500万年前から約170万年の間に急速に進行した、プレート移動や地殻変動による隆起や沈降、気候変動に伴う海水準の変動などを経て形成された。この地殻変動によりユーラシア大陸から分離されるとともに、海水準の変動も加わり近隣島嶼の間で分離・結合を繰り返してきた。

大陸と陸続きに移動した生物が、島の形成過程により取り残され隔離された結果、近隣地域で近縁種が絶滅したり、近縁種と比較して原始的な形質をもつ遺存固有種がみられる。

(1) 景観の特性

ア 地形・地質

やんばる地域は、沖縄島の北部に位置する北東－南西方向に細長い地域（南北約32km、東西約12km）である。沖縄島最高峰の与那覇岳(503m)を有し、西銘岳や伊湯岳など明瞭なピークを持たない標高400m前後の非石灰岩の山地が、島の中央部に島軸に沿って発達し、脊梁山地をなしている。

山地の周辺には標高200m以上の丘陵が広がり、山地や丘陵を分断するように小面積の台地・段丘が様々な高度で広範囲に分布している。降雨が地表の岩石を削った結果、谷間や丘陵・山地の発達する起伏に富んだ山地地形が形成され、これらの地形を東西方向に河川が流れている。低地は少なく、河川の下流のみに分布する。

脊梁山地を主に形成するのは白亜系から第三系の千枚岩と砂岩（名護層・嘉陽層）である。辺戸岳一帯、ネクマチヂ岳一帯にはカルスト地形を形成している古生層石灰岩が分布している。また、辺戸岬には石灰岩の海食崖が見られ、一気に水深200mの深さに達している。

イ 植生

やんばる地域における森林率は80.5%である。やんばる地域で最も広い面積を占めている自然植生は、山地の酸性土壌に発達するスダジイやオキナワウラジロガシなどのブナ科植物で代表される亜熱帯常緑広葉樹林である。中でも、オキナワシキミースダジイ群集が全体の約4割を占めている。次いで、ヤブツバキクラス域代償植生の常緑広葉樹二次林のギョクシンカースダジイ群集18.9%、常緑針葉樹林二次林のリウキュウマツ群落12.3%が占める。古生層石灰岩上には、自然林のナガミボチョウジールリュウキュウガキ群落分布している。そのほか、小面積であるが特徴的な植生としては、国頭村ではオキナワウラジロガシ群集、ソテツ群落、モリヘゴ群落、大宜味村ではアマミアラカシ群落、東村ではマンダロウ群落

などが見られる。

やんばる地域の森林は、琉球王府時代より建築や造船の用材、薪、木炭といった沖縄の森林資源の供給地としての役割を担い、その多くが過去に人の手が入ったことのある森であり、現在も沖縄県における林業・林産業の拠点となっている。伊部岳から西銘岳までの一帯及び伊湯岳から玉辻山の東部地域は、多くが昭和10年代以降伐採されていない自然林である。亜熱帯常緑広葉樹林は、伐採されると切り株からの萌芽、種子の発芽により速やかに広葉樹林に回復する。農地等が放置されるとススキ草原を経てイジュやリュウキュウマツが優占する二次林となり、長い時間をかけて自然林へと戻る。また、リュウキュウマツ群落はこのような遷移途中の二次林と、人工林によるものを含む。

やんばる地域の森林に民有林が占める割合は72.6%である。民有林立木地の82.7%を占める天然林のうち広葉樹は85.9%であり、スダジイ、オキナワウラジロガシ、イスノキ等が主である。人工林のうち広葉樹は38.1%を占め、リュウキュウマツ、イヌマキ等の針葉樹が主体となっている。天然林のうち育成複層林は18.1%を占め、人の手により維持する施業が行われている。

ウ 野生動植物

やんばる地域の森林には、オキナワトゲネズミ、ケナガネズミ、ヤンバルクイナ、ノグチゲラ、ホントウアカヒゲ、クロイトカゲモドキ、オキナワイシカワガエル、ヤンバルテナガコガネなどのやんばる地域固有もしくは琉球諸島固有など当該地域に特徴的な生き物が生息している。与那覇岳などの一部高標高地では雲霧林が発達し、着生のシダ植物やラン科植物が多く存在する。河川上流から中流の溪流沿いには、熱帯・亜熱帯に特徴的な溪流植物が分布し、さらに当該地域に固有な両生類の産卵・生息環境にもなっている。

スダジイやオキナワウラジロガシなどの広葉樹は成長して大径化が進むと、幹に空洞ができ、さらに年月を経ると樹洞ができる。これらの環境は、ノグチゲラやケナガネズミ、ヤンバルテナガコガネ等に利用され、これらの生物は大径木が多く生育する森林に依存している。

①動物

i) 哺乳類

やんばる地域に生息する陸生哺乳類は15種で、このうち11種が在来種である（当山昌直(1993)、沖縄島北部地域（国頭村・大宜味村・東村）における貴重動物の生息分布 特殊鳥類等生息環境調査VI（沖縄県））。

在来種のうち、オキナワトゲネズミは沖縄島の固有種、ケナガネズミ、ヤンバルホオヒゲコウモリ、リュウキュウテングコウモリが沖縄島と奄美群島の固有種、リュウキュウユビナガコウモリが奄美大島以南の南西諸島固有種である。このうち、オキナワトゲネズミとケナガネズミは遺存固有種である。

環境省の第4次レッドリストには絶滅危惧種として7種が掲載されている。オキナワト

ゲネズミ（絶滅危惧ⅠA類）は、1946年にアマミトゲネズミの亜種として発見され、その後、1989年に新種として位置づけられた。2001年以降は生息情報がなく、絶滅が懸念されていたが、2008年に西銘岳周辺において、30年ぶりの捕獲による生息確認があった。現在は、やんばる地域内のごく限られた狭いエリアにしか生息していない。ヤンバルホオヒゲコウモリ（絶滅危惧ⅠA類）、リュウキュウテングコウモリ（絶滅危惧ⅠB類）は、1998年にやんばる地域で初めて発見されたコウモリである。

ファイリマングースは1910年に那覇市近郊で放たれた外来種で、その後、分布域が北上し、1960年代に名護市で頻繁に目撃されるようになり、1993年には大宜味村塩屋と東村平良を結ぶラインまで北上した。本種の分布拡大に伴い、ヤンバルクイナなどの分布域の縮小や生息数の減少が確認され、2000年からやんばる地域で捕獲事業が行われている。

また、ペット由来によるノネコによりオキナワトゲネズミ、ケナガネズミ（絶滅危惧ⅠB類）、ヤンバルクイナ等への捕食の影響がある。

ii) 鳥類

やんばる地域において1992年までに確認された鳥類は155種で、このうち留鳥は40種であり、そのうち38種が在来種である（髙原建二(1993)、沖縄島北部地域（国頭村・大宜味村・東村）の鳥類について 特殊鳥類等生息環境調査Ⅵ（沖縄県））。留鳥の占める割合は4分の1であり、渡り鳥の占める割合が多いことが特徴である。国内には633種の鳥類が自然分布する（日本鳥類目録 改定第7板（2012 日本鳥学会））ことから、国土面積の0.1%に満たない本地域において、その約4分の1の種数が確認できることになる。

また、環境省第4次レッドリストには留鳥のうち12種が記載されている。

沖縄島固有の鳥類として、ノグチゲラ（絶滅危惧ⅠA類）とヤンバルクイナ（絶滅危惧ⅠA類）があげられる。ノグチゲラは、1987年に新種として発表され明治時代以前は沖縄島中部の恩納村まで生息していたとされるが、その後、生息域は狭くなり、現在の主な生息地は、大宜味村塩屋と東村平良を結ぶライン以北である。ヤンバルクイナは1981年に新種記載された鳥類で、国内唯一の無飛力の鳥である。1980年代後半には大宜味村塩屋から東村平良以南にも生息が確認されたが、生息の南限はそれ以後徐々に北上し、2004年には国頭村与那以北まで狭まったが、マングースの防除が進むとともに徐々に生息域は回復傾向にあり、現在、低密度ながら大宜味村大保ダムから東村福地ダム付近まで分布が確認されている。

iii) 両生類・は虫類

やんばる地域に在来の陸生は虫類は17種、在来の両生類は12種生息し、日本に生息する陸生は虫類・両生類のそれぞれ約2割の種に相当する（当山昌直1993、沖縄島北部地域（国頭村・大宜味村・東村）における貴重動物の生息分布）。環境省の第4次レッドリストには絶滅危惧種として、陸生は虫類が4種、両生類が5種記載されている。

両生類における沖縄島もしくは沖縄諸島の固有種は、オキナワイシカワガエル（絶滅危惧ⅠB類）、ナミエガエル（絶滅危惧ⅠB類）、ホルストガエル（絶滅危惧ⅠB類）、ハナサキガエル（絶滅危惧Ⅱ類）、リュウキュウアカガエルであり、生息域の減少などによりやんばる地域が主な生息地となっている。イボイモリ（絶滅危惧Ⅱ類）、ナミエガエル、オキナワイシカワガエル、ホルストガエルは遺存固有種である。なお、近年の研究により2011年にはイシカワガエルがオキナワイシカワガエルとアマミイシカワガエルの2種に、リュウキュウアカガエルがリュウキュウアカガエルとアマミアカガエルの2種に分類されている。

分布の特殊性があるは虫類はリュウキュウヤマガメ（絶滅危惧Ⅱ類）、クロイトカゲモドキ（絶滅危惧Ⅱ類）であり、いずれも遺存固有種である。このうち、クロイトカゲモドキは沖縄諸島のなかで地理的に細かく分化し、亜種も含めると5種に分化している。

やんばる地域の砂浜には3種のウミガメ類が上陸・産卵し、多い年には年間700回以上の上陸と500回以上の産卵が確認されている。その産卵数の8割がアオウミガメ、2割がアカウミガメである（平成22年度沖縄島北部地域におけるウミガメ類の生息実態調査業務）。タイマイの上陸・産卵はまれである。

iv) 魚類

沖縄島で記録されている陸水性魚類は、42科116属173種というデータがある（東海大学出版会、琉球列島の陸水生物 p.37）。これらの魚類は、生活史の中で河川と海を使う回遊性のものと、一時的に汽水域や淡水域に侵入してくるものがほとんどであり、純淡水性の種は少ない。アオバラヨシノボリは、沖縄島北部の固有種である。

沖縄島北部に生息していた沖縄島と奄美大島の固有亜種であるリュウキュウアユは、沖縄島では1970年代末で絶滅し、現在は放流された奄美大島産のものが定着している。

v) 昆虫類

沖縄島からは4,169種が記録され、やんばる地域には2,900種以上とされている（東清二、沖縄昆虫誌 p37（2002年琉球列島産昆虫目録）、1987年沖縄産昆虫目録、1990年沖縄生物学会誌、やんばるの昆虫、東清二、1989年昭和62年度沖縄島北部地域調査報告書）。今後も、多くの新記載種などが予想される。また、沖縄諸島もしくは琉球列島の固有種519種がやんばる地域に分布する。

日本最大の甲虫であるヤンバルテナガコガネは、やんばる地域のみで生息する遺存固有種である。大木の樹洞（うろ）に生息し、幼虫はそこに堆積する腐食物を摂食して成長する。現在、生育に適したうろのある高齢木が少なく密猟も疑われることから、絶滅が危惧されている。

やんばる地域の自然林は階層構造が発達し、個体数は多くないものの生息する種数は豊富とされ、湿度が高い環境を好む種が生息している。一方で、二次林は種数は多くないものの個体数は多いとされ、開けて明るく乾燥した環境を好む種（カメムシ、バッタ、コオロギな

ど) が生息する。

②植物

やんばる地域に自生する維管束植物は1,282種とされ、このうち、沖縄島の固有種でやんばる地域に主に分布するものはクニガミサンショウヅル、クニガミヒサカキ、コバノミヤマノボタン、オキナワヒメナキリ、ホシザキシヤクジョウ、オキナワセッコク、クニガミトンボソウなどである。

やんばる地域の植物種は、大陸系、北方系、南方系の種が混在し、分布の南限となる種を多く含み、多くの固有種を有していることが特徴である。また、与那覇岳上部の雲霧林では、地生や着生のラン科植物やシダ植物が豊富に存在し、多様性が高い。山地の溪流部には増水時に急流にさらされる環境に適応して、葉が流線型や矮小化した溪流植物が分布し、大陸系・北方系の種の保存に重要な場所となっている(1990年沖縄生物学会誌、山原の植生の特徴と保護、宮城康一、1984年監修 池原貞雄、初島住彦、沖縄の生物、1988年新城和治、宮城康一、沖縄島国頭地域の植物相)。

エ 海域

やんばる地域の沿岸部には裾礁が形成されている。

砂浜はウミガメの産卵地になっており、春から夏にかけて、アカウミガメ、アオウミガメ、タイマイが上陸、産卵する。

辺戸岬では、1月から4月にかけて、南下もしくは北上するザトウクジラを観察できる。

オ 自然現象

国頭村奥^{おく}では年間降水量の平年値が2501.5mm、年平均気温の平年値が20.7℃となっている。なお、山地では平地に比べて降水量が多く、与那覇岳では、平均3,000mm以上である(気象庁ホームページ)。

当該地域には台風が年間平均7件程度襲来し、たびたび暴風と豪雨によるかく乱が生じている。

カ 人文景観

琉球王府時代から近年まで、やんばる地域は薪炭や都城の建設・船などの用材となる林産物の生産・供給の場として重要な役割を果たし、昭和に入るまでは海上輸送が主流で、沖縄島中南部との間で「山原船」による交易が盛んに行われた。国頭から首里王府へ重い材木を多人数で運ぶ時の歌は、クンジャンサバクイ(国頭木遣音頭)として伝えられている。山で薪炭や琉球藍づくりなどの生業が営まれていた名残として、現在も各所に、炭窯や藍つぼの跡が残る。

海と山に囲まれたやんばる地域の集落では、海と山を一体として捉え、一つの空間から自然の恵みを受けているという空間認識が見られる。それを特徴づけるのが祭祀で、集落の邪気を

払い豊作・豊漁を祈願するシヌグや海神（ウンジャミ・ウンガミ）祭などはこれを象徴的に表している。このような祭祀は集落の伝統として受け継がれ、国頭村^{あだ}安田のシヌグ、大宜味村塩屋湾のウンガミが国指定重要無形民俗文化財に指定されている。

（２）利用の現況

沖縄県における平成 29 年度の国内入域観光客数（県外から県内へ入ってきた国内客人数）は 957 万 9900 人（平成 29 年度沖縄県入域観光客統計概況（沖縄県））で、同じ期間における国内客のやんばる地域への訪問率は 6.3% となっており、単純に計算すると、やんばる地域の国内訪問者は 60 万人と想定される。同じ期間のやんばる地域への宿泊率は 1.8% であり、やんばる地域への訪問者のうち 7 割がやんばる地域外への宿泊による日帰り利用となっている（平成 29 年度観光統計実態調査報告書）。

また、やんばる地域は沖縄島中南部地域にはない森・川・海を楽しむための県民の手頃なレジャー先にもなっており、やんばる野生生物保護センターの利用者でも、半数近くが中南部地域からの利用者となっている。

利用形態は、辺戸岬^{ひじおおたき}や比地大滝などの景勝地や観光地めぐり、与那覇岳やネクマチヂ岳などの亜熱帯照葉樹林の散策、東村慶佐次^{げさし}のマングローブや安波^{あは}ダムなどのダム湖を利用したカヌー体験、川遊び、海水浴や海浜でのキャンプなどが行われている。そのほか、ヤンバルクイナやノグチゲラなどのやんばる地域の生き物観察を目的とした利用も行われている。

（３）社会経済的背景

ア 土地所有別

本区域は、公園区域 17,352 ha（陸域）のうち、国有地 6,445 ha（37.1%）、公有地 7,882 ha（45.4%）、私有地等 2,728ha（15.8%）であり、国有地及び公有地の本区域を占める割合が大きい。

イ 人口及び産業

やんばる地域の人口は、平成 27 年 10 月時点で 9,688 人である。村別に見ると、国頭村 4,908 人、大宜味村 3,060 人、東村 1,720 人であり、いずれの村も減少傾向にある。年齢構成は、15 歳未満 12.9%、15～64 歳 56.1%、65 歳以上 31.0% となっており（平成 27 年国勢調査）、全国平均に比べて 65 歳以上の割合が高い。

表 1 人口の推移（国勢調査）

	昭和 60 年	平成 2 年	平成 7 年	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年
国頭村	6,510	6,114	6,015	5,825	5,546	5,188	4,908
大宜味村	3,567	3,513	3,437	3,281	3,371	3,221	3,060

東村	2,134	1,891	1,963	1,867	1,825	1,794	1,720
3村合計	12,211	11,518	11,415	10,973	10,742	10,203	9,688

表2 年齢別人口（平成27年国勢調査）

	総数 人口	15歳未満 人口	15～64歳 人口	65歳以上 人口
国頭村	4,908	646 (13.2%)	2,772 (56.5%)	1,490 (30.4%)
大宜味村	3,060	373 (12.2%)	1,691 (55.3%)	996 (32.5%)
東村	1,720	232 (13.5%)	968 (56.3%)	520 (30.2%)
合計	9,688	1,251 (12.9%)	5,431 (56.1%)	3,006 (31.0%)
全国平均 (%)		12.6%	60.7%	26.6%

やんばる地域の就業者総数は4,587人で、産業別就業者数の割合では第3次産業(58.7%)の割合が高く、第1次産業(25.7%)、第2次産業(15.3%)の割合を上回っている(平成27年国勢調査)。

表3 産業別就業者数

平成27年	第1次産業		第2次産業		第3次産業		就業者総数
	人口	構成比	人口	構成比	人口	構成比	
国頭村	424	18.8	351	15.5	1,486	65.7	2,266
大宜味村	373	27.0	236	17.1	774	56.0	1,384
東村	384	41.2	117	12.5	432	46.3	937
合計	1,181	25.7	704	15.3	2,692	58.7	4,587

※就業者総数には「分類不能の産業」の就業者が含まれるため、第1次産業から第3次産業までの就業者数の合計と、就業者総数が一致しない。

やんばる地域の総生産額は29,699百万円で、第1次産業3,714百万円(13.9%)、第2次産業6,547百万円(24.5%)、第3次産業16,366百万円(61.3%)である(平成27年度沖縄県市町村民所得)。第1次産業の総生産額のうち農業が94.8%を占め、畜産(豚)やパインアップル生産

等が盛んである。林業は第1次産業の総生産額の2.8%を占め、広葉樹チップや支柱材生産の他、特用林産物等が生産されており沖縄県における林業・林産業の拠点となっている。

ウ 権利制限関係

(ア) 保安林

(国有林)

種 類	位 置	重複面積 (ha)	指定年月日
水源かん養	沖縄県国頭郡東村地内	334	昭57. 5. 13

(公有林)

種 類	位 置	重複面積 (ha)	指定年月日
水源かん養	沖縄県国頭郡国頭村地内	17	昭39. 8. 28
	沖縄県国頭郡大宜味村地内	828	昭46. 12. 7
	沖縄県国頭郡東村地内	176	昭55. 7. 7等
潮害防備	沖縄県国頭郡国頭村地内	5	昭35. 6. 3
土砂崩壊防備	沖縄県国頭郡国頭村地内	39	昭46. 12. 7
風致	沖縄県国頭郡大宜味村地内	2	昭50. 4. 24
防風	沖縄県国頭郡国頭村地内	0.02	昭33. 10. 21
	沖縄県国頭郡大宜味村地内	2	昭50. 4. 24等

(民有林)

種 類	位 置	重複面積 (ha)	指定年月日
潮害防備	沖縄県国頭郡国頭村地内	23	昭35. 6. 3
			昭62. 1. 6 平1. 10. 6等
土砂崩壊防備	沖縄県国頭郡国頭村地内	9	昭46. 12. 7
土砂流出防備	沖縄県国頭郡国頭村地内	26	平5. 5. 20等

(イ) 鳥獣保護区

名 称	位 置	重複面積 (ha)	当初指定年月日
国指定やんばる (安田) 鳥獣保護区 (特別保護地区)	沖縄県国頭郡国頭村地内	1,279 (220)	平21. 11. 1
国指定やんばる (安波) 鳥獣保護区	沖縄県国頭郡国頭村地内	465	平21. 11. 1
県指定西銘岳鳥獣保護区 (特別保護地区)	沖縄県国頭郡国頭村地内	84 (30)	昭60. 6. 18
県指定 ^{きよて} 佐手鳥獣保護区	沖縄県国頭郡国頭村地内	158	昭40. 6. 22

(特別保護地区)		(58)	
県指定与那覇岳鳥獣保護区(特別保護地区)	沖縄県国頭郡国頭村地内	666	昭60. 6. 18
県指定大保鳥獣保護区	沖縄県国頭郡大宜味村地内	240	昭49. 11. 14

(ウ) 史跡名勝天然記念物

区 分	名 称	位 置	指定年月日
国指定史跡	宇佐浜遺跡	沖縄県国頭郡 国頭村字宇佐浜	昭47. 5. 15
国指定特別天然記念物	ノグチゲラ	地域を定めず指定	昭52. 3. 15
国指定天然記念物	アカヒゲ	地域を定めず指定	昭45. 1. 23
国指定天然記念物	オカヤドカリ	地域を定めず指定	昭45. 11. 12
国指定天然記念物	カラスバト	地域を定めず指定	昭46. 5. 19
国指定天然記念物	ジュゴン	地域を定めず指定	昭47. 5. 15
国指定天然記念物	ケナガネズミ	地域を定めず指定	昭47. 5. 15
国指定天然記念物	トゲネズミ	地域を定めず指定	昭47. 5. 15
国指定天然記念物	カンムリウミスズメ	地域を定めず指定	昭50. 6. 26
国指定天然記念物	イイジマムシクイ	地域を定めず指定	昭50. 6. 26
国指定天然記念物	リュウキュウヤマガメ	地域を定めず指定	昭50. 6. 26
国指定天然記念物	ヤンバルクイナ	地域を定めず指定	昭57. 12. 18
国指定天然記念物	ヤンバルテナゴコガネ	地域を定めず指定	昭60. 5. 14
国指定天然記念物	安波のタナガームイの植物群落	沖縄県国頭郡 国頭村字安波	昭47. 5. 15
国指定天然記念物	田港御願の植物群落	沖縄県国頭郡大宜味村 字田港御神上原	昭47. 5. 15
国指定天然記念物	慶佐次湾のヒルギ林	沖縄県国頭郡 東村字慶佐次港原	昭47. 5. 15
国指定天然記念物	与那覇岳天然保護区域	沖縄県国頭郡 国頭村字奥間、字比地	昭47. 5. 15
県指定天然記念物	フタオチョウ	地域を定めず指定	昭44. 8. 26
県指定天然記念物	コノハチョウ	地域を定めず指定	昭44. 8. 26
県指定天然記念物	イボイモリ	地域を定めず指定	昭53. 11. 9
県指定天然記念物	クロイワトカゲモドキ (マダラトカゲモドキも含)	地域を定めず指定	昭53. 11. 9

	む)		
県指定天然記念物	ホルストガエル	地域を定めず指定	昭60. 3. 29
県指定天然記念物	ナミエガエル	地域を定めず指定	昭60. 3. 29
県指定天然記念物	イシカワガエル	地域を定めず指定	昭60. 3. 29
県指定天然記念物	アマミヤマシギ	地域を定めず指定	平6. 2. 4
県指定天然記念物	安波のサキシマスオウノキ	沖縄県国頭郡 国頭村字安波	昭34. 12. 16
県指定天然記念物	大宜味御嶽のビロウ群落	沖縄県国頭郡 大宜味村字大宜味	昭49. 2. 22
県指定天然記念物	比地の小玉森の植物群落	沖縄県国頭郡 国頭村字比地49	平3. 4. 2
県指定天然記念物	喜如嘉板敷海岸の板干瀬	沖縄県国頭郡 大宜味村喜如嘉	昭49. 2. 22
村指定天然記念物	安田のアカテツ保安林	沖縄県国頭郡国頭村字 安田115、133-1、193	昭58. 3. 31
村指定天然記念物	塩屋ウブンチャのハスノハ ギリ	沖縄県国頭郡大宜味村 字塩屋594番地	平19. 3
村指定天然記念物	サキシマスオウノキ	沖縄県国頭郡 東村字川田下福地260	昭59. 3. 22
村指定天然記念物	オガタマノキ	沖縄県国頭郡 東村字有銘29-1	平13. 1. 30

(エ) その他

(海岸保全区域)

名 称	位 置	重複延長 (m)	指定年月日
辺戸海岸	沖縄県国頭郡国頭村字辺戸地内	595	昭50. 11. 27
奥世波原海岸	沖縄県国頭郡国頭村字奥地内	560	昭50. 11. 27
奥港	沖縄県国頭郡国頭村字奥地内	511	昭59. 10. 30
楚洲 1	沖縄県国頭郡国頭村字楚洲地内	660	昭62. 5. 12
楚洲 2	沖縄県国頭郡国頭村字楚洲地内	578	昭62. 5. 12
安田漁港海岸	沖縄県国頭郡国頭村字安田地内	620	平18. 12. 8
安波海岸	沖縄県国頭郡国頭村字安波地内	243	昭50. 11. 27
津波海岸	沖縄県国頭郡大宜味村字津波地 内	1, 015	昭40. 4. 6

津波海岸	沖縄県国頭郡大宜味村字津波地内	1,200	昭55. 1. 28
塩屋港	沖縄県国頭郡大宜味村字塩屋地内	171	昭61. 6. 13
塩屋港	沖縄県国頭郡大宜味村字塩屋地内	658	昭62. 10. 30
塩屋漁港海岸	沖縄県国頭郡大宜味村塩屋地内	687	昭40. 12. 21

(河川区域 (2級河川))

名 称	位 置	重複延長 (km)
与那川 よながわ	沖縄県国頭郡国頭村字与那以下海に至る	1.8
辺野喜川 べのきがわ	沖縄県国頭郡国頭村字辺野喜以下海に至る	5.0
安波川 あはがわ	沖縄県国頭郡国頭村字安波以下海に至る	6.4
普久川 ふんがわ	沖縄県国頭郡国頭村字伊部以下安波川落合に至る	6.9
床川 とくがわ	沖縄県国頭郡国頭村字安波川瀬原国有林30林班い小班地先から安波川合流点まで	2.0
比地川 ひじがわ	沖縄県国頭郡国頭村字比地以下海に至る	5.1
奥間川 おくまがわ	沖縄県国頭郡国頭村字奥間以下比地川合流点まで	4.0
奥川 おくがわ	沖縄県国頭郡国頭村字奥仲田原1037番地先から海に至る	2.0
沢又川 さわまたがわ	沖縄県国頭郡東村字高江国有林16林班ろ小班地先から福地川に至る	0.4
藍川 あいかわ	沖縄県国頭郡東村字川田国有林5林班に小班地先から福地川に至る	3.0
福地川 ふくじがわ	沖縄県国頭郡東村高江高江原466-1地先から海に至る	0.1
新川川 あらかわがわ	沖縄県国頭郡東村字高江高江原466番地先から海に至る	3.3
大保川 たいほがわ	沖縄県国頭郡大宜味字饒波山1321番地先から海に至る	4.3
田嘉里川 たかざとがわ	沖縄県国頭郡大宜味村字田嘉里赤又原1712番地先から海に至る	2.1

3 公園区域

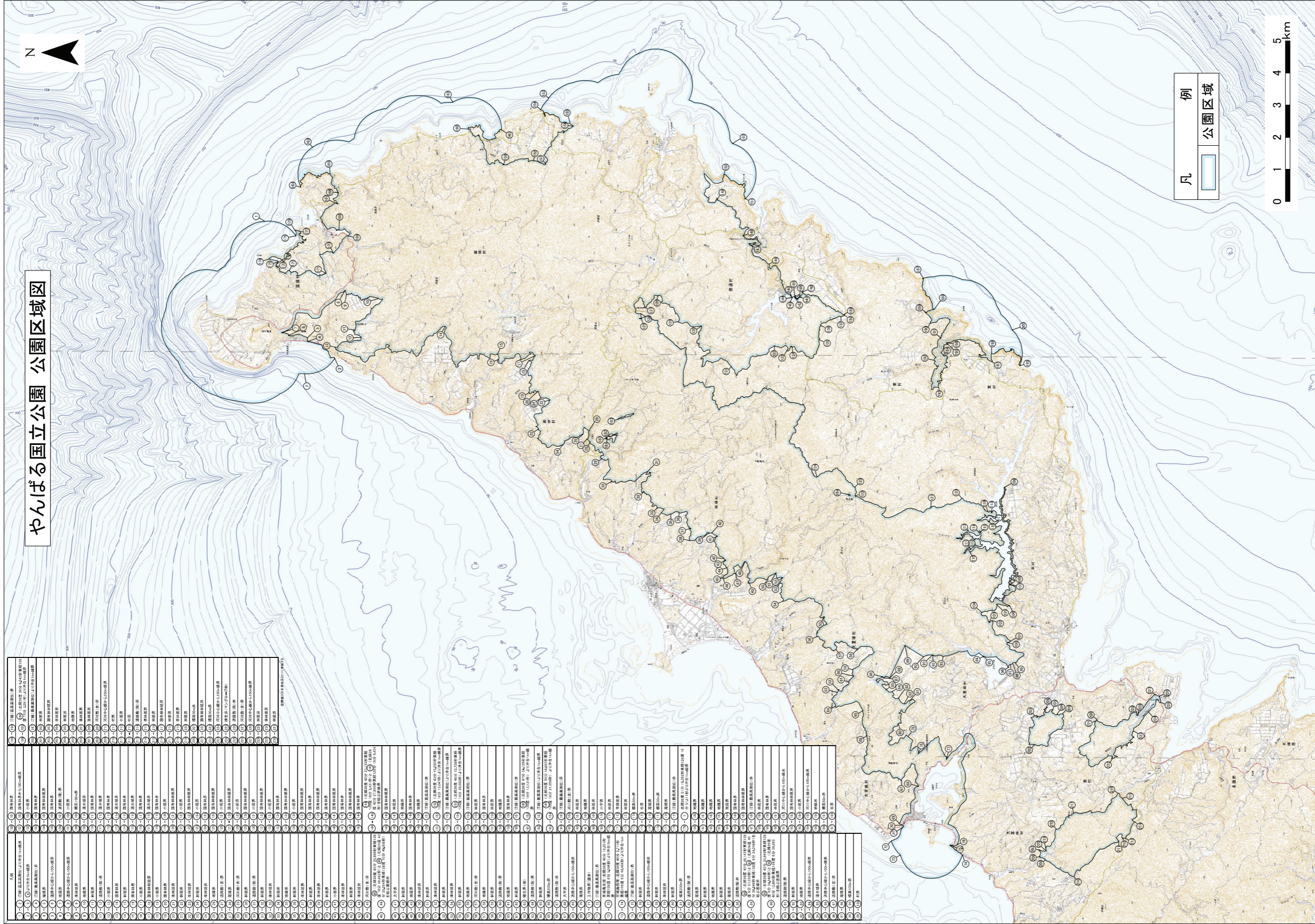
やんばる国立公園の区域を、次のとおりとする。

(表1：公園区域(陸域)表)

都道府県名	区 域	面 積 (ha)
沖縄県	国頭郡国頭村内 国有林沖縄森林管理署 31 林班、37 林班から 41 林班まで、44 林班から 53 林班まで、55 林班から 59 林班まで、62 林班及び 63 林班の全部並びに 28 林班、30 林班、32 林班から 36 林班まで、42 林班、43 林班、54 林班、60 林班及び 61 林班の各一部 国頭郡国頭村 字安田、字安波、字伊地、字宇嘉、字宇良、字奥、字奥間、字宜名真、字佐手、字謝敷、字楚洲、字浜、字比地、字辺戸、字辺野喜、字辺土名及び字与那の各一部	13,279 国 5,592 公 5,476 私 2,016 不 195
	国頭郡大宜味村 字上原、字大兼久、字大宜味、字押川、字喜如嘉、字塩屋、字謝名城、字白浜、字大保、字田嘉里、字田港、字津波、字饒波、字根路銘、字宮城及び字屋古の各一部	2,593 国 51 公 1,887 私 572 不 83
	国頭郡東村内 国有林沖縄森林管理署 3 林班及び 4 林班の全部並びに 1 林班、2 林班、5 林班、7 林班及び 19 林班の各一部 国頭郡東村 字有銘、字川田、字慶佐次、字平良、字高江及び字宮城の各一部	1,480 国 802 公 519 私 140 不 19
	これら地域の地先海岸、地先島嶼及び地先岩礁を含む。	
	合計	17,352 国 6,445 公 7,882 私 2,728 不 297

(表 2 : 公園区域 (海域) 表)

区 域	面 積 (ha)
沖縄県 国頭郡国頭村、大宜味村及び東村の地先海面の一部	3,670



やんばる国立公園 公園区域図

凡 公園区域 例

0 1 2 3 4 5 km

①	打根 鹿島神社	打根 鹿島神社
②	打根 鹿島神社	打根 鹿島神社
③	打根 鹿島神社	打根 鹿島神社
④	打根 鹿島神社	打根 鹿島神社
⑤	打根 鹿島神社	打根 鹿島神社
⑥	打根 鹿島神社	打根 鹿島神社
⑦	打根 鹿島神社	打根 鹿島神社
⑧	打根 鹿島神社	打根 鹿島神社
⑨	打根 鹿島神社	打根 鹿島神社
⑩	打根 鹿島神社	打根 鹿島神社
⑪	打根 鹿島神社	打根 鹿島神社
⑫	打根 鹿島神社	打根 鹿島神社
⑬	打根 鹿島神社	打根 鹿島神社
⑭	打根 鹿島神社	打根 鹿島神社
⑮	打根 鹿島神社	打根 鹿島神社
⑯	打根 鹿島神社	打根 鹿島神社
⑰	打根 鹿島神社	打根 鹿島神社
⑱	打根 鹿島神社	打根 鹿島神社
⑲	打根 鹿島神社	打根 鹿島神社
⑳	打根 鹿島神社	打根 鹿島神社
㉑	打根 鹿島神社	打根 鹿島神社
㉒	打根 鹿島神社	打根 鹿島神社
㉓	打根 鹿島神社	打根 鹿島神社
㉔	打根 鹿島神社	打根 鹿島神社
㉕	打根 鹿島神社	打根 鹿島神社
㉖	打根 鹿島神社	打根 鹿島神社
㉗	打根 鹿島神社	打根 鹿島神社
㉘	打根 鹿島神社	打根 鹿島神社
㉙	打根 鹿島神社	打根 鹿島神社
㉚	打根 鹿島神社	打根 鹿島神社
㉛	打根 鹿島神社	打根 鹿島神社
㉜	打根 鹿島神社	打根 鹿島神社
㉝	打根 鹿島神社	打根 鹿島神社
㉞	打根 鹿島神社	打根 鹿島神社
㉟	打根 鹿島神社	打根 鹿島神社
㊱	打根 鹿島神社	打根 鹿島神社
㊲	打根 鹿島神社	打根 鹿島神社
㊳	打根 鹿島神社	打根 鹿島神社
㊴	打根 鹿島神社	打根 鹿島神社
㊵	打根 鹿島神社	打根 鹿島神社
㊶	打根 鹿島神社	打根 鹿島神社
㊷	打根 鹿島神社	打根 鹿島神社
㊸	打根 鹿島神社	打根 鹿島神社
㊹	打根 鹿島神社	打根 鹿島神社
㊺	打根 鹿島神社	打根 鹿島神社
㊻	打根 鹿島神社	打根 鹿島神社
㊼	打根 鹿島神社	打根 鹿島神社
㊽	打根 鹿島神社	打根 鹿島神社
㊾	打根 鹿島神社	打根 鹿島神社
㊿	打根 鹿島神社	打根 鹿島神社